

かつての酒蔵通りを思わせる修景 (伊丹市)

活用資源	まちなみ
取組主体	伊丹市

概要

- ・伊丹酒蔵通りは、江戸中期から酒造業が盛んで、町家・酒蔵・寺院などが集積する郷町として栄えた地域です。
- ・酒蔵通りは伊丹郷町を東西に結ぶ歩行者空間で、長寿蔵（酒蔵を利用したレストラン）、大溝（江戸時代の石組排水溝を再現したもの）、本泉寺、有岡城跡など伊丹を特徴づける歴史的資源が残っています。これらの資源を活かしながら、市民や多くの来街者が集い、歴史を感じられる沿道空間づくりに取り組んでいます。
- ・平成元年頃から、歴史的なまちの雰囲気演出する景観まちづくりとして、歩行者優先道路化や美装化、街路灯整備を行っています。
- ・また、伝統的な酒蔵や寺院、町家の景観を大切に守るため、通りに面する建物の窓・壁のデザインや色彩・高さなどの基準をつくるとともに、行政の助成事業も活用しながら、景観を誘導しています。これにより、まちなみに伝統的デザインが取り入れられ、歴史的景観が形成されています。
- ・実際に、町家をイメージした飲食店が新たに建てられたり、地区内の商店主たちが協議会（伊丹酒蔵通り協議会）を立ち上げ、様々なイベントが開催されたりするなど、景観まちづくりと賑わいづくりが、行政・民間一体となって進められています。

ポイント

こんな苦勞が

- ・平成7年の阪神・淡路大震災により、歴史的なまちなみの大半が失われ、酒蔵通りでの景観まちづくりが挫折しそうになりました。こうした中、積み上げてきた取組を次の世代に引き継ぐため、被災をまぬがれた酒蔵の利活用、白壁の修景、蔵をモチーフとした祭の実施など残された資源を一つ一つ大切に活用していくことで、現在の歴史的なまちなみの形成につながっています。

ココがコッ！

- ・行政等が主催する表彰制度での受賞は、取り組む人のモチベーションを上げるとともに、周囲からの信頼や認知度も向上します。伊丹酒蔵通り協議会は、国土交通省の「美しいまちなみ優秀賞」や兵庫県の「人間サイズのみちづくり賞」などを受賞し、エリアの価値が向上してブランディングにつながっています。
- ・行政による景観形成地区指定に向けた働きかけが、住民の景観まちづくりの意識醸成の場となりました。その結果、「まち灯り」「伊丹まちなかバル」 「白雪蔵まつり」など民間による様々な取組へと結びついています。



整備されたまちなみ

この事例をもっと知りたい場合

伊丹市都市計画課

TEL 072-744-2262